

## 2020 年度活動報告 日本語教育基礎・日本語教育基礎演習

藤原 由紀子（関西学院大学日本語教育センター）

### 1. クラス概要

本科目は、グローバルスタディーズ科目<sup>1</sup>として日本語教育センターが全学の学生を対象に開講するものである。授業は1週間に1コマで、日本語教育基礎は春学期2クラス、秋学期4クラス、日本語教育基礎演習はどちらも1クラスずつ開講した。

日本語教育基礎は、日本語教育についての基礎的な知識を学ぶとともに、多文化共生社会における自己のあり方や言語の使用者としてどうありたいかについて考えることを目的としている。今年度は授業のオンライン化に伴い、森篤嗣他著『超基礎日本語教育』（くろしお出版、2019年）を教科書として使用し、春学期はLUNAとOneDriveを使ったオンデマンド型、秋学期はLUNA、OneDrive、Zoomを使いオンデマンド型と同時双方向型を組み合わせて実施した。

日本語教育基礎演習では、日本語教育基礎で学んだことを踏まえ、実際に教案作成や模擬授業を行い、実践的な日本語教育の力をつけることを目指している。春学期、秋学期ともにZoomを利用した同時双方向型で行った。

### 2. 授業内容

ここでは春学期の実践を中心に報告する。

#### 日本語教育基礎

森篤嗣他著『超基礎日本語教育』（くろしお出版、2019年）を軸に、基本的に1週1章のペースで進めた。1週の基本的な流れは【①前章の教員解説と意見交換シートへのフィードバックを読む。（質問があれば、LUNA 掲示板へ書き込む）②次章のテキストを読む。テキストを読みながら理解確認のワークシートを作成し、提出する。意見交換シートに他の学生と共有したい意見や質問を書き込む。】とした。毎週の流れや課題の提示方法をシンプルに統一することで、オンデマンド型による混乱が生じないよう努めた。本科目ではグループによるワークやディスカッションを重視している。それは他の人の考えに触れることが、自分が当たり前だと思っている母語や言語に対する意識を疑うきっかけとして有効だからである。そこで、オンデマンド型でも学生同士が意見交換できるような場として、前述の「意見交換シート」を準備した。これ

---

<sup>1</sup> 多文化共生社会の実現に貢献する世界市民となるために、異文化への理解を深めるとともに、グローバルな視点でものを見つめることのできる力を身につけ、日本人としてのアイデンティティーの確立をサポートするという目的で設置されている全学科目。

はパワーポイントに教科書を画像として貼り付けたもので、学生はコメント機能を使って、教科書を読み進めながら考えたことや質問などを書き込み、また互いに返信し合うというものである。書き込みは必須、返信については毎回2つ以上書くよう指示した。また教員はすべての学生の書き込みに対し、毎回返信および解説を行った。

#### 日本語教育基礎演習

本科目では例年交換留学生の日本語学習プログラムと連携し、初級授業の見学などを実施しているが、今年度はそれらの活動を入れることはできなかった。そこで、Web上の日本語教材や学習補助ツールを分析するといったオンラインを活かせるような活動を代わりに追加した。模擬授業については例年同様3回実施した。今年度は学生が実施する模擬授業も同時双方向型オンラインで行うしかいないため、まず対面授業とオンライン授業でどのような点が異なるかについて確認した上で教案作成に入った。また振り返りの際にも、オンライン、対面それぞれで必要となる工夫や配慮の違いについて議論する機会を設けた。

### **3. 成果と今後の課題**

#### 日本語教育基礎

オンライン授業の受講環境が整わない学生もいる中、第1回から履修者に負担の少ない形で授業を提供することができた点が良かった。また前述の「意見交換シート」によりオンデマンド型でもインタラクティブな活動を実現することができたことは有益であった。学生からも「他の受講生と意見交換ができたり、先生がフィードバックをきちんとしてくださっていて、自分の疑問点を解消できたり、様々な意見を知ることができたのでよかったです」「目に見える形でみんなの体験や意見が知れたことは実りのあることでしたし、話し合いの場が設けられたような感覚でした」という感想が得られた。授業後アンケートを実施した結果、オンデマンド型については好きな時間に取り組めるので良いという回答が多かった。また、教材の形式についても映像教材等を求める声はなく、「適切だった」との回答だった。しかし、教える側としては学生の反応を見ながら解説やフィードバックができないところに難しさを感じる点もあり、秋学期はZoomを使った同時双方向型とオンデマンド型を組み合わせる形で実施した。

#### 日本語教育基礎演習

学生はオンラインの模擬授業を実施することで、対面の模擬授業とはまた違った気づきや学びを得ており、私自身も勉強になった。例年に比べると個人で取り組む課題を増やしたせいか、学生により取り組みに差が見られたので、中間で報告の機会を入れるなど、他の学生からの刺激を得られるような機会を増やしたい。